

ひびきコンテナターミナルPFI事業

受賞機関 北九州市港湾局

はじめに

北九州市は、平成7年6月に、当時の運輸省が今後の港づくりの長期ビジョンとしてまとめた「大交流時代を支える港湾」において、北部九州が中枢国際港湾として位置づけられたことを受け、環黄海圏から発生する北米・欧州向けコンテナ貨物の中継機能を担う国際ハブポートを目指した「環黄海圏ハブポート構想」を策定した。

本構想の実現に向けて、ターミナルの整備及び運営に、民間の資金及びノウハウを積極的に活用するPFI手法を採用することとしたものである。



環黄海圏ハブポート構想

事業の概要

- ・岸壁（ - 15m ）： 2 バース（延長700m）
- ・岸壁（ - 10m ）： 2 バース（延長340m）
- ・ターミナル面積：約43ha
- ・総事業費：約1,000億円（公共による岸壁等の整備費を含む）

事業の特徴

(1) PFI事業の形態

ひびきコンテナターミナルPFI事業は、公募によって選定されたPFI事業者が自ら資金調達を行い、荷役機械や管理棟などのターミナル施設の整備を行い、25年間のターミナル運営を行うものである。

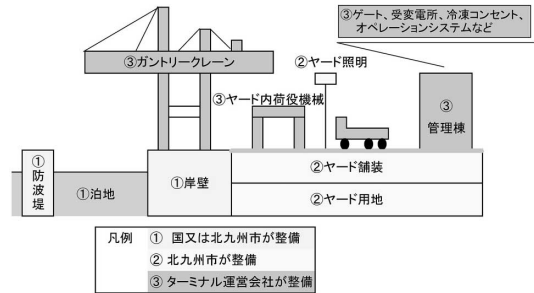
(2) 施設の整備・運営形態

公共は、岸壁、航路泊地、防波堤、ヤード等の基礎構造物の整備を行う。一方、PFI事業者は、ガントリークレーン、ヤード内荷役機械、管理棟、ゲート、オペレーションシステム等を自らの資金で整備・導入し、市からヤードの専用使用許可を得て、ターミナル運営を行う。

また、PFI事業者は、船会社からの荷役収入により、市へのヤード使用料や運営経費の支払及び投資資金の回収を行うという、独立採算型のPFI事業となっている。

(3) 事業の経緯

平成12年5月から手続きを行い、平成16年1月26日に、PSA社を代表企業とする民間企業16社及び北



施設整備イメージ図

九州市はPFI事業者となる「ひびきコンテナターミナル株式会社」にかかる出資協定を締結し、同年2月5日には、PFI事業者と北九州市の間で事業実施協定を締結した。現在、PFI事業者並びに公共によるターミナル整備を進めているところである。

(4) PFI導入により期待される効果

PFIの導入により、民間による機器調達と取扱貨物量に応じたタイムリーな整備が可能となり、徹底したコストダウンが実現される。併せて、投下資金回収努力による施設稼働率の向上も見込まれ、国際競争力のある荷役料金やサービスの提供が可能となる。一方、国内外を対象とした公募を行ったことで、意欲と技術力及び経営能力に優れた民間事業者の選定が可能となった。

これらにより、アジアの主要港に負けない国際競争力のあるコンテナ貨物取扱サービスの提供が可能となり、サービス水準の向上、取扱貨物量の増大が図られ、国際競争力のあるハブポートとして、北九州港全体の発展並びに北九州都市圏の経済活性化及び地域再生に貢献することが期待される。



ひびきコンテナターミナルバース